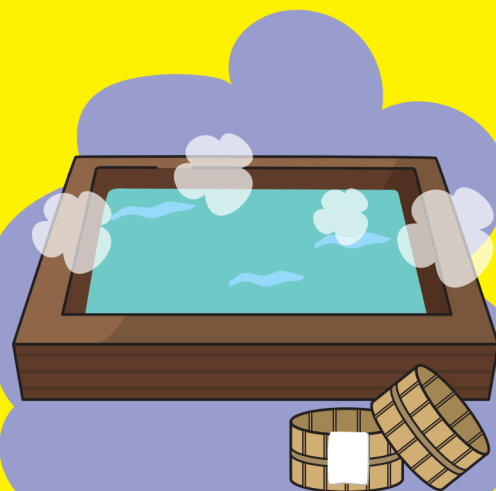


入浴施設における レジオネラ症 防止対策





レジオネラ症とは？



レジオネラ症は、レジオネラ属菌が原因で起こる感染症です。急激に重症になって、死亡する場合もあるレジオネラ肺炎と、数日で自然に治る場合が多いポンティアック熱に分けられます。レジオネラ肺炎は、高齢者、病人など抵抗力が低下している人や、疲労などで体力が落ちている人などが発病しやすいといわれています。

レジオネラ症

レジオネラ肺炎	ポンティアック熱
<ul style="list-style-type: none">■ 主な症状<ul style="list-style-type: none">・ 高熱・呼吸困難・ 筋肉痛・吐き気・ 下痢・意識障害■ 特徴 急激に重症になり死亡することもある	<ul style="list-style-type: none">■ 主な症状<ul style="list-style-type: none">・ 発熱・ 寒気・ 筋肉痛■ 特徴 一般的に軽症で数日で治ることが多い



レジオネラ属菌とは？



レジオネラ属菌は、土の中や河川、湖沼など自然界に生息している細菌です。アメーバなどの原生動物に寄生し、20～45℃で増殖します。冷却塔水や循環式浴槽水などで増殖することが知られています。



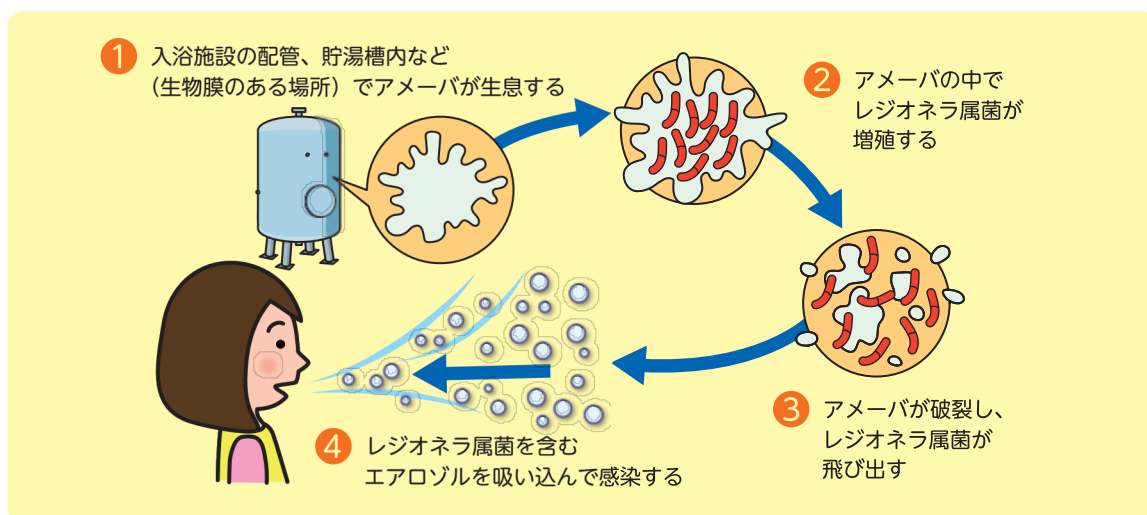
どうやって感染するの？



レジオネラ属菌は、入浴施設などの水を使用する設備に付着する生物膜（バイオフィルム・ぬめり）に生息するアメーバなどの体内で大量に繁殖します。

人への感染は、これらの衛生管理の悪い設備から発生したエアロゾル（空中に浮遊している小さい粒子）にレジオネラ属菌が含まれ、これを吸入することによって起きることが知られています。

レジオネラ属菌は、人から人へは感染しません。



どうすればレジオネラ症を防げるの？



入浴施設を安心して利用できるよう、レジオネラ症の発生防止のため、衛生管理を徹底しましょう。

～レジオネラ症発生対策3原則～

- 増殖させない（浴槽水の換水及び消毒を徹底しましょう）
- 発生させない（生物膜を発生させないように清掃・消毒を徹底しましょう）
- 吸い込ませない（エアロゾルを形成しやすく、かつ肺に吸引する機会が多い、循環式浴槽、打たせ湯、シャワーなどについては特に注意しましょう）



浴槽の清掃はどうすればよいの？



浴槽の清掃については、完全に換水し、浴槽を清掃しましょう。



浴槽水の管理はどうすればいいの？



浴槽水の水質検査を実施し、水質基準を守りましょう。
浴槽水の消毒が塩素剤による場合は、遊離残留塩素濃度の測定を実施しましょう。



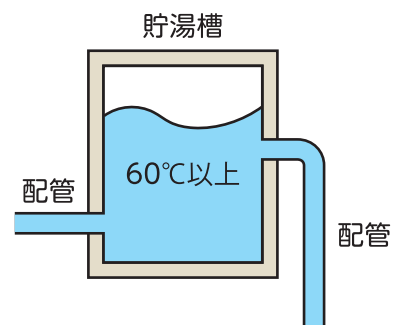
レジオネラ属菌が発生しやすい場所はどこですか。



以下の場所に発生しやすいので特に注意して清掃・消毒を行いましょう。

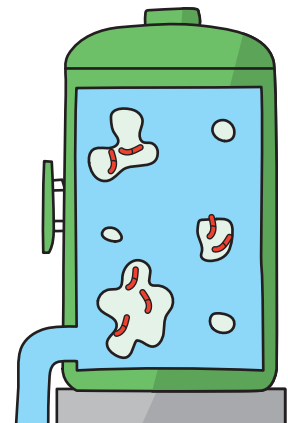
貯湯槽

貯湯槽の中や配管では、お湯の滞留時間が長い
ため、低い水温ではレジオネラ属菌が繁殖
しやすい環境となります。
湯温を常に 60℃以上に保ち、お湯を滞留さ
せないようにしましょう。



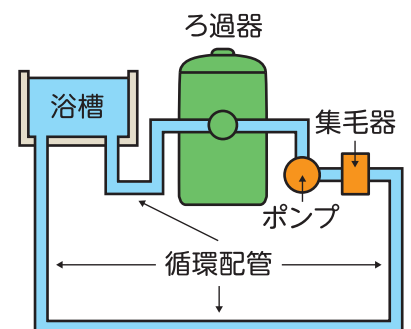
ろ過器

ろ過装置内で、レジオネラ属菌はアメーバな
どに寄生し増殖します。
そのため、循環式浴槽のろ過装置は、十分に
逆洗浄して汚れを排出するとともに、生物膜
を除去しましょう。
塩素系薬剤の投入口は浴槽水がろ過装置に入
る直前に設置する必要があります。



循環配管

循環配管の内壁には、生物膜が生成されやす
く、レジオネラ属菌の温床となります。
循環配管内の生物膜を除去し、消毒するこ
とが必要です。



気泡発生装置
ジェット噴射装置
打たせ湯

気泡発生装置やジェット噴射装置、打たせ湯などでは、エアロゾルが発生します。そのため、エアロゾルにレジオネラ属菌が含まれることがないように、連日使用している循環させた浴槽水をこれらには使用しないようにしましょう。また、空気取入口から土ぼこりや浴槽水等が入らないような構造にしましょう。



シャワー

シャワーの内部でレジオネラ属菌が増殖し、エアロゾルとともに吸入してレジオネラ症が発生することがあります。連日使用している循環させた浴槽水をシャワーには使用しないようにしましょう。



露天風呂

露天風呂は外界と接しているため、レジオネラ属菌に汚染される機会が多くなります。露天風呂の浴槽湯が配管を通じて内湯に混じらないようにしましょう。





レジオネラ症の疑いのある患者が発生したら？



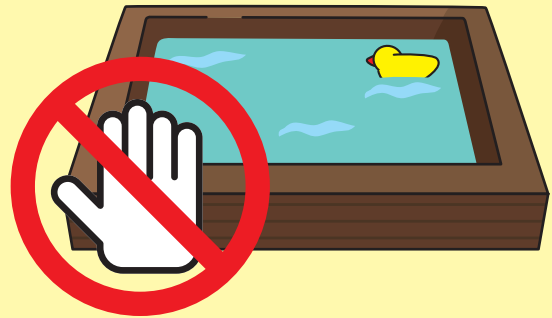
保健所からレジオネラ症の原因施設の疑いがあるとして連絡があった場合など、入浴施設においてレジオネラ症と疑われる患者が発生した場合、感染症を拡大させないために対処する必要があります。

対処方法

保健所からの連絡以外で発覚した場合には、速やかに所轄の保健所へ連絡しましょう。



原因究明のため、浴槽など施設の現状を保持したままにしましょう。



独自の判断で浴槽内等への消毒剤の投入はやめましょう。



入浴施設の浴槽の使用を中止しましょう。



